

秋

Vol.61

2017.10

My Polaris
看護部長の
ポライト

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき
Beating
Kashima
鹿島

10月から地域包括ケア病床の運用をはじめました。

看護部長 川谷 清美

鹿島病院の平成29年度最大の目標である「地域包括ケア病床の10月開設」に向け、今年の2月から院内調整を開始し多職種一丸となって、取り組んできました。

実際に地域包括ケア病床を運用している病院に見学に行かせていただきました。それらの病院は自施設に介護施設を持っておられましたが当院はそれがありません。鹿島病院の地域包括ケア病床では、入院時より具体的な退院先を視野に入れ進めていくことが必要だと感じました。

今までの療養病棟であれば医療依存度が高く退院できない患者さんや、退院支援にも時間がかけられました。包括ケア病床では60日という期限があり短期間での退院支援に戸惑いを感じました。

地域包括ケア病床開設にあたっての勉強会を複数回開催し、医療の現状や、算定基準(在宅復帰率、看護必要度、リハビリ単位数、看護師配置等)の知識を職員が共有していきました。

また4月からは試行期間として、60床の療養病棟のうち26床を地域包括ケア病床とし、業務内容の見直しと修正を繰り返しながら実績を積んでいきました。

毎月の開設会議と毎週の運用会議を行い、医師をはじめ、看護師、リハビリスタッフ、医療相談員、事務職員と多職種で話し合いを重ね、徐々に地域包括ケア病床に向けての共通理解ができてきたように思います。

現在の医療病棟では、認知機能低下や経口摂取の進まない患者さんが増え、対応は厳しい状況ではありますが、水分補給と離床目的として、毎日お茶会とレクリエーションを取り入れるなど、離床を積極的に促し退院に向けての取り組みを行っています。

徐々に、受持ちナースが主導となり患者さんの支援を行えるようになってきています。病状により退院支援が困難な事例もありますが、急性期医療の治療が終了した患者さんの退院支援や開業医や介護施設からの紹介患者の早期受け入れを行い、地域包括ケアシステムを支えていきたいと考えています。



院長朝礼一分間スピーチ特集

院長朝礼時に行なっている、1分間スピーチをH28年度、H29年度の中から一部紹介します。

題 フクロウ

H28.5.2

フクロウの声を聴かれたことがある方はいますか？私には2歳になる子供がいるのですが、この娘は最近、寝る前の独語が激しく、横になってから1時間以上は寝ません。そんな時に晴れた日ならば必ず9～10時頃、必ず僕たちを助けてくれるのがフクロウです。9時頃になると静かな部屋に「ほー、ほー、ホー」と何とも言えないような鳴き声が響き渡ります。すると僕は子供に向かって「ほら、ふくろうさんが寝られんけん、おこちょーよ」と言うと、子供は「おこちょー、おこちょー」と言いながら、少しだけ怖がってくれます。フクロウの寿命は大体、7～8年くらいだそうです。僕が小さいころから裏山で泣いているので30年以上になります。フクロウも世代交代をしながら生息しているのだと思います。実際に見たことはありませんが良い鳴き声です。

題 ありがとうございます

H28.5.27

以前、施設で働いている時、指導する立場であった。ある時、男性の職員を注意すると、普通は「すいません」と言うことが多いと思うが、その職員は「ありがとうございました」と言った。私は、その言葉にとっても感銘を受け、それから私が注意されることがあると、「ご指摘ありがとうございました」と言うようにしている。当院へ入職しもう少しで4か月になる。これからもこの気持ちを持って頑張っていこうと思っている。

題 短歌

H28.6.8

夜、頻回にコールが鳴る、80才半ばの患者さんがおられる。頻尿、不眠、脳障害があるため、夜は5分、15分おきにコールが鳴り、夜勤者は別な患者さんを見ながらの対応となる。先日、夜勤の際、眠れないということでホールへ行き話を聞いていたところ、「夜明け前、度々おきる われのこ と しょんべんババア と 言うぞおかしき」と短歌を詠んで下さった。私はそれを聞き、力が抜けた。脳疾患障害もありながら自分のことを冷静に見て短歌を詠むことができることに感心した。私達も患者人一人一人の意思を尊重しながら対応していかなければならないと思った。今後も忙しい中でも冷静に対応していこうと思う。

題 あたたかいまなざし

H28.10.21

中学生の息子の机の上の整頓をしていたら、とてもいい言葉が書いてあったので、息子の言葉ではないが、今日はその言葉を紹介したい。「あたたかいまなざしで見つめていればあの人のよさが見えてくる 冷たいまなざしで見つめれば あの人の欠点ばかり見えてくる お互いのあたたかいまなざしで本当のあなたと私を見つめよう」考え方が違う人、ちょっと苦手かもと思う人とも出会うことがあります。その人の欠点探しではなく、少しでも良い所があればそこを見つめていければ、人間関係がスムーズにいくのではないかと思います。今日この頃です。

題 在宅介護の実情

H29.1.24

今年のお正月、私は主人の実家で過ごしました。主人には93才になるおばあさんがいます。脳出血で約3年前にオペをしました。右上下肢麻痺があり、嚥下障害で水分にはとろみが必要で、軽度の認知症と軽度の難聴があります。歩行は出来ず、車椅子の生活でトイレ介助が必要です。去年10月から在宅で生活をしています。転倒を繰り返したため、ポータブルトイレは使えず、トイレへ行きます。これを60才を過ぎた母が仕事をしながら主に介護をしています。同じような状況の患者様が3階にはたくさんおられます。私は3泊4日で車椅子移乗、トイレ介助、食事の準備、キズや軟膏処置など、普通病棟では当たり前のようにやっていることを在宅で行い、在宅で行うことが、いかに大変かを身をもって経験しました。今までおこなっていた退院支援が正しかったのかと改めて考えました。排泄方法や日中の過ごし方など、自宅に合わせて家族へ指導していきますが、一度や二度聞いただけではとても出来ることはありません。ましてや24時間の介護になれば、その負担はとて大変だと思います。今回のこの経験を今後の退院支援に活かし、退院指導の開始時期や方法などもう一度考え直さなければいけないと思います。回復期の看護師としてより良い支援をおこなえるようチームで共有していきたいと思います。

題 夢のロボット

H29.4.7

私には小学校1年生、2年生、3年生、5年生の子供が4人いる。5年生の長男が小学校で「夢のロボット」という題の作文で、自分がやっているサッカーと私達両親の職業であるリハビリをからめて、動けない人をどうサポートしていくか、機能訓練を考えるロボットのことを書いていた。小学生なのでリハビリのことも分からない子が殆どだった。子供達には、簡単にはリハビリの仕事についてはなしもしていたが両親の仕事を理解して作文を作ってくれたことをとても嬉しく感じた。このことを励みにこれからも仕事を頑張っていきたいと思う。

題 息子との朝の時間

H29.7.5

私には小学校3年生になる息子がいます。普段は反抗期なのか、私の言うことにひとつひとつ反抗してきます。そんな時、少しうれしいことがありました。いつも玄関で息子が小学校へ行くのを見送ってから私は仕事に向かいます。家を出て農道の辺まで運転していると、遠くの道路で一生懸命手を振る子供がいて、私は何だろうと思ってよく見てみるとなんと私の息子でした。最初は目を疑いました。もしかしたら私が気づかない日も毎日手を振ってくれていたのかと思うと息子の行動がうれしくて、涙が出そうになりました。そして車の窓から私が手を振りかえすとしばらく手を振り、安心したように歩いていく息子の姿に心が温まりました。反抗期でどう接していいか分からなかったですが、その日以降、この朝の時間を大切にそして毎日続けて行こうと思いました。

題 バースディ休暇

H29.7.21

先日バースディ休暇を利用して専門学校で一緒だった友達に会いに名古屋へ行った。名古屋から友達の子の運転で静岡県の沼津へ行き、生しらす、桜えびの海鮮丼を食べとても美味しかった。静岡でも富士山が見えない日があるということだったが、私が行った誕生日は富士山を見ることが出来た。静岡は気候の乱れが少ないところで、人柄も穏やかな人が多いということだった。一方私の友達は、名古屋生まれの名古屋育ちで、名古屋の人は自分の思ったことをずけずけ言う人が多いと聞いた。私は島根生まれの島根育ちだが、友達が言うには島根県というと山陰で雨が多いイメージで肌がきれいなところはいいが、島根の人は言いたいことが言えない人が多いと思っており、最初は戸惑ったらしい。私も集団で会議をしても言いたいことが言えない人が多いと感じることが多い。実際私も言えていない。ただ友達は、島根のことは好きと言ってくれており、度々遊びに来てくれる。島根のいいところ、観光地も案内してもらって島根を好きになってもらおうと思う。また、バースディ休暇がある当院へ勤務出来て良かったと思う。



医療相談部 小林裕恵

地域連携室便り 56

1.はじめに

今回の連携室だよりでは、鹿島病院の医療療養病棟の入退院の現状と、10月1日からその病棟に開設した地域包括ケア病床についてお伝えします。

2.入院の現状

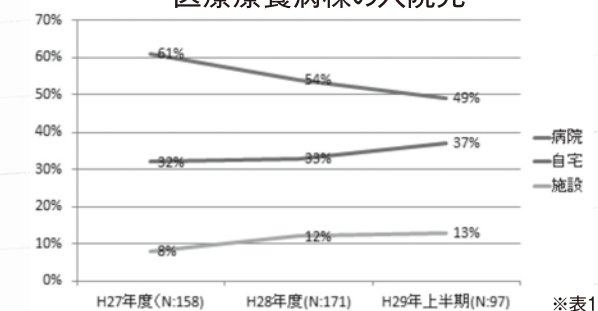
表1は、平成27年度からH29年9月末までの入院元のデータです。今年度上半期は、地域の急性期病院など病院からの転入院が49%、自宅からが37%、施設からが13%となっています。

鹿島病院への入院から退院までの基本的な流れは、ご家族来院による入院相談、判定会をへて、入院時カンファレンス、入院、そして退院可能かどうかを見て、退院時カンファレンス、退院となっています。

当院に入院相談に来られる多くの患者さんのご家族が、急性期病院において「長くいることが出来ない」「次はどこへ行くのかすみやかに決めてください」といわれたと話されます。確かに、急性期病院の在院日数は2週間余りです。病気が発症してわずかな時間で、今後の生活についてよく考える間もなく転院といわれたと感じら

れる方も多いのです。療養病床では急性期病院に比べ入院期間が長くなり、自宅退院可能という患者さんばかりではないため、退院後の生活も含め、入院相談をしっかり行っています。

医療療養病棟の入院元

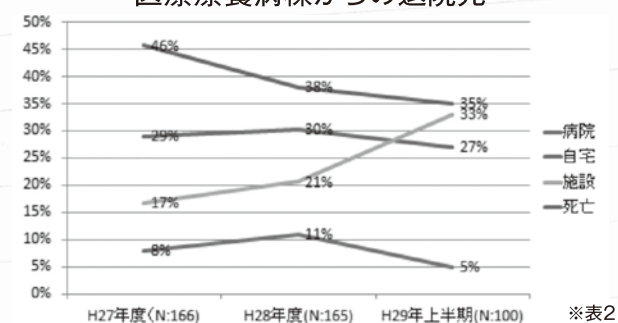


3.退院の現状

3.1 退院の現状

退院については、表2のとおりですが、今年の上半期を見てみると自宅27%、施設33%となっています。近年施設への退院が増えていることがわかります。

医療療養病棟からの退院先



3.2 退院の課題

退院については患者さんの病状が改善するということはもちろんですが、患者さん御本人やご家族の意欲、介護力、経済的な問題、社会資源の有無が大きく影響します。高齢となり、今まで何とか食事がとれていたが、だんだん食べられなくなって今後どのように栄養摂取を考えるかということも退院先の決定に大きく影響します。嚥下が悪い、吸引や経鼻経管栄養など医療行為が必要になってくると自宅に帰ることがむずかしくなるからです。

近年このような状況に対応していこうと、経鼻栄養や吸引のある方々の受け入れをする施設が徐々に増えてつあります。しかし、利用費用は高額です。そういった患者さんの退院支援を行っていくためには、施設でどのようなことが可能となるのか、その中での療養病床の活用についても話し合いが必要だと感じます。

4.包括ケア病床の活用

今年10月1日から鹿島病院の医療療養病棟60床のうちの26床を地域包括ケア病床に転換し、運営を開始しました。その病床は、高齢者が可能な限り、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けながら、必要に応じて医療や介護等のサービスを使い、最期を迎えられるような仕組みを、医療面から支えることを目的としています。急性期病院で行うような高度な診断や治療は難しいですが、急性期後、軽症急性期、亜急性期などの内科、整形外科的疾患を中心に対象疾患の制限はなく対応していく病床です。具体的には、尿路感染や肺炎の治療、転倒などをきっかけに日常生活動作能力が低下した方のリハビリなどに関して力を入れています。入院期間は原則2か月以内で、入院時から今後の生活を見据えた準備が不可欠です。

地域包括ケアの考え方が広まり、当院だけではできない事を地域の先生方、介護保険施設やケアマネジャーさんたちと連携を取って進めていく事が日常的になってきています。患者さんやご家族が病気を受け止め、生活を立て直すには一定の期間が必要と思われま。その期間は長くなりすぎても、短か過ぎてもいけません。地域包括ケア病棟のようなところ入院し、そこで家族もいろいろ考え、次へ向かうことが必要です。地域包括ケア病床を地域で活用することが、その鍵であると思います。

ソーシャルワーカーとしてはこのような中で、医療と介護の機関同士が十分なコミュニケーションを取り合えるよう、また患者や家族がこれからの生活をどう過ごしていきたいのかを考えてもらうような働きかけをしないといけないと考えています。

研修医報告

松江市立病院 研修医2年目 田中翔大

平成29年7月の1ヶ月間鹿島病院で研修させていただきました。

市立病院以外の病院で研修医として働くのは初めてで不安でいっぱいでしたが、楽しく研修させていただくことができました。

鹿島病院では多業種によるカンファレンスが非常に多いことが印象的でした。

オーダーすることはあっても、栄養士やセラピストの方と実際に患者さんについて話し合うことは市立病院ではできなかった経験でした。

また各種訪問サービスにも同行させていただき、退院後の患者さんがどのような環境でどのように過ごされているかも見ることと同時に、夏の鹿島の海や山などの自然も感じる事ができました。今回の研修を糧に市立病院に戻って良い診療ができるように努力していきたいと思います。

最後に、7月第1週に体調管理不足で突然の1週間のお休みをいただきまして、多くの方にご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありませんでした。様々な方に腰を気遣ってもらい、申し訳なさと共に非常にありがたく感じておりました。

短い間でしたが、1ヶ月間ありがとうございました。



1



2



この子がぎゅれ
答えは8ページ

医療体験
の声

8月～9月 18名の
中学生・高校生の皆さんが、
医療現場の体験に来られました。

(体験事業の内訳は以下のとおり)

- ★中学生・高校生1日看護体験
.....中学生3名、高校生7名
- ★中学生地域医療現場体験...中学生3名
- ★夏季高校生医療現場体験セミナー
(医師志望者向け)高校生3名
- ★中学校職場体験.....中学生2名

医師・薬剤師体験

★一番印象に残っているのは、先生が話された「仕事=Communication」ということについてです。今回、薬剤師の先生と患者さんのところに行きましたが、患者さんと同じ目線でしっかりとCommunicationをとっているからこそ、信頼関係が生まれ、仕事の質も上がっているのだなあと感じました。私も将来、患者さんと同じ目線でCommunicationがとれる、そんな医師になれるよう勉強をしっかりと頑張っていきたいです。

★薬剤師の先生が患者さんに話をしに行くのについて行かせていただいたことが印象に残っています。患者さんのお話を真剣に聴く姿勢が大切なのだと分かりました。

「Communication」は、どこに行っても大切なことだと思うので、忘れないようにしたいです。

★進路について迷っていたので、検査・薬剤師・リハビリテーションなど、いろいろな職種の体験ができてよかったです。



看護師・セラピスト体験

★看護師さんの仕事の内容や、車いす体験など、普段めったに経験できないことばかりだったのでいい体験になりました。今後に生かしたいです。

★患者さんとお話した時に、看護師さんたちにパワーをもらっているとおっしゃっていたので、私もパワーを与えることができる看護師になりたいです。

★シーツ交換をしてみて、簡単そうに見えるけれど意外と難しいことが分かりました。

★一番印象に残っているのは、患者さんへの接し方です。「仕事=コミュニケーション」という考え方を頭に入れてこれからもがんばります。

★患者さんとコミュニケーションをとることで、たくさん新しいことを見つけたりしてとても楽しかったです。今後の進路も考えることができたのでよかったです。

★一番印象に残っているのは、車いす体験です。簡単そうに見えても実際は大変なことだとわかりました。

★一番印象に残っているのは、足浴です。寝たきりの方の足をベッドの上で洗うために、看護師さんたちがいろいろな工夫をしていたり、一人一人に合った方法を見つけるのも看護師さんなんだと学ぶことができました。

★退院される患者さんが、とても笑顔で帰っていかれたので、私も嬉しくなりました。

★作業療法士の仕事を具体的に知ることができ、また、体験出来たのでよかったです。笑顔で接することは、まわりも笑顔になるし患者さんも笑顔になるから大切だと思いました。

★一番印象に残っているのは、理学療法士の仕事です。リハビリ見学をした時に、患者さんと一生懸命に頑張っている姿を見て自分もこんな風になりたいと思いました。



中学校職場体験

★リハビリ体験では、車いすを押すだけでなく、自分が座るといこともしました。段差をあがったりするのは、すごく怖かったです。車いすが怖かったり、検査で体をさわられたりするなど、患者さんは不安な気持ちでいっぱいだと思います。しかし、看護師さんやリハビリにかかわる方などの声かけ、コミュニケーションは患者さんを安心させてくれるものだと感じました。

★3日間を通して、どの職種も患者さん、利用者さんの立場に立ち、相手のことを想って働かれているなと感じました。信頼関係を築いたり、落ち着いて先のことを考えて行動されている姿は、とてもかっこ良かったです。今回の体験で、もっと看護師さんに強いあこがれを持ったし、たくさんの職種を知ることでもでき、また、進路の視野を広げることができました。とても良い体験になり、よかったです。



鹿島レンジャーに学ぶ(6)

～「鹿島病院の唄」大合唱への軌跡～

師走の風が吹くの巻

診療部 医師 戸田博敏

平成29年も夏が過ぎ、朝夕涼しくなってきましたが、皆様如何お過ごしでしょうか?学ぶ(6)とりかかるのが遅く、締め切りに間に合うかなという状態です。たまたま見たEテレ、新体操のコーチ、オリガ・ブヤーノワ(Olga Buianova)という人の言葉;今の自分を乗り越えるには、うまくできなくてもやり遂げることが大事^{*1)}。これを勝手に今の自分の励ましの言葉にしました。

その年、平成20年も押し詰まった11月～12月、いくつかの企画が前後して始まり、並行して進行していました。その一つが、もちろん鹿島レンジャーです。鹿島レンジャーは鹿島戦隊隊員だけでなく、隊員(レンジャー)が出演する企画そのものも鹿島レンジャーと呼びます。鹿島レンジャーは鹿島戦隊と悪役との戦いです。悪役に捉えられた人質を正義の味方鹿島レンジャーが救出する^{*2)}。見た目、ストーリーは幼稚です。しかし、そこににがしかのメッセージを込め、大のおとなが本気になって演じます。その結果は爆笑+α、観客(職員)に「何か」が伝わり、レンジャー自身も「何か」を得ている。その「何か」は本業の仕事にも+(プラス)になっている。私は、多分彼らも、そう信じています。レンジャーの世話役ともいえるK築君(隊員レッド)にレンジャーの応援を以下お願いしました。

・エンターテインメント 大合唱本番は平成21年3月、鹿島文化ホール、鹿島病院院内研究発表大会、テーマ「終末期と回復期」を予定していました。ともすると、暗くなりがちな雰囲気吹き飛ばす。

・メッセージを込める、伝える 演技の中で小鯖先生と職員へのメッセージ:「過去を振り返るだけでなく未来へ挑戦する。」を伝える。

過去:前年度、院内研究での小鯖先生の「鹿島病院の唄」熱唱。未来:小鯖先生を囲んで「鹿島病院の唄」を職員みんなで大合唱>する。それを若さと呼んでもいいのではないのでしょうか。小鯖先生からのメッセージ「鹿島病院には若さが足りない」^{*3)}に対する、私たち職員の答えです。

・小鯖先生をエスコートしステージへつれて上がる。 鹿島レンジャーの流れの中で小鯖先生をステージに導く。その必然性があるシナリオ作りは彼らにお任せです。ポイントは合唱のことはその直前まで先生に秘密にしておくことです。ネットから入手した会場となる鹿島文化ホールの客席とステージの見取り図を渡してお願いしました。

・小鯖先生と大合唱 レンジャーは先生に付き添い先生と一緒に大合唱する。少なくとも2番(歌詞)は先生にも一緒に歌っていただけるよう、必要であればその促しをお願いしました。

・一人二役以上 前年度3月にデビューした鹿島レンジャー、今回(平成21年3月)はどうなることやら...!?デビュー当時は2名のレンジャー、1名の悪役、1名の人質の計4名でした。ほどなく内容が明らかになります。今回はK築君(隊員レッド)、F村君(隊員ピンク)に、新たに作業療法士のK介君(隊員グリーン)、介護職のM希君が悪役のボス、そして同じく介護職のI君は悪役ボスの手下の馬!?としてメンバーに加わり、レンジャーは確実にパワーアップします。メンバーは大合唱で一人二役以上の活躍をします。I君はギター伴奏を、M希君は大合唱の指揮者も兼ねます。彼らを知る職員なら私も含めて、これだけ読んだだけでも、なんだか楽しいことをやってくれそうだと笑みがこぼれそうです。そして、私はというと想定外でしたが「頼むことは頼まれること、こんな格言あったかな^{*2)}」の通り、またしても人質役に使っていただく?ことになります。そして自称「連絡係(大合唱参加者の)」に精進することを誓いました。

頃やよし(表現やや古)平成20年12月29日、鹿島病院仕事納めの日「プレゼンテーション」と題したスライドを添付したメールを全職員宛てに送信しました。大合唱の構想をお知らせするとともに、一人でも多くの職員の方々に合唱練習に参加していただくよう呼びかけました。終わりのスライドで当時はまわっていた福島正伸さんという人の著書から「信頼できる仲間がいれば、乗り越えられない困難はない^{*4)}」を引用しました。面と向かって言えば顔から火を噴くような言葉ですが平気で引用しました。送信し終えた時、何故か、「師走の風が吹く」と心の中でつぶやいていたのを思い出します。この時点で連絡係もまだ知りえない大合唱に賛同する企画が一つ、二つ動き出そうとしていました。新年は何かいいことありそうな、そうであってほしい、夜明け前のような... そんな平成20年が暮れてゆくのでした。

ほんの少しでもいいから あの人(ひと)に与えてあげたい...♪^{*5)}

解説:

平成20年6月鹿島病院前院長小鯖覚先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告中です。

参考文献とメディア

- *1) 奇跡のレッスン 世界最強コーチと子供たち。(Eテレ 2017-9-22 放送)
- *2) 鹿島レンジャーに学ぶときめき鹿島 夏号 48号 平成26(2014)年8月
- *3) 鹿島レンジャーに学ぶ(2)ときめき鹿島 秋号 57号 平成28(2016)年10月
- *4) リーダーになる人の たった1つの習慣 福島 正伸 KADOKAWA/中経出版 2008-11-05
- *5) 「鹿島病院の唄」作詞・作曲 小鯖覚

人事のお知らせ

入職

- ①部署 ②趣味・特技は何ですか？
③好きなもの・好きなことを教えてください。
④一言ご挨拶をお願いします。

50音順



畦地 なつき

①医療相談部 社会福祉士
②スポーツ観戦
③ORANGE RANGE のライブに行くこと
④熊本から来ました。出身は鹿児島です。1日でも早くなじめるように頑張ります。いろいろ教えてください。
よろしくをお願いします。



濱崎 舜

①診療部 栄養課 調理員
②釣り、ドライブ
③ペットの散歩、コーヒー
④医療関係での仕事は初めてですが、まずは仕事を覚えることに専念します。
よろしくお願いします。



松近 由佳

①診療部 栄養課 調理員
②お菓子づくり
③食べること・寝ること・ペット(犬)とあそぶこと
④みなさまに安心・安全でおいしい食事の提供が出来るよう一生懸命仕事に取り組んでいきたいと思っております。
どうぞよろしくお願いします。

任命・異動
看護部部長 川谷清美(看護部部長兼課長)
在宅サービス部通所リハビリテーション 中本千鶴子(看護部)
昇進
リハビリテーション部リハビリテーション科科長 松浦祐治
(リハビリテーション部リハビリテーション科科長代理)
看護部課長 金坂晴美(看護部課長代理)
リハビリテーション部リハビリテーション科係長 門脇志保
(リハビリテーション部リハビリテーション科主任)

正規職員登用
小塚のりこ(看護部)
退職
谷本邦枝(診療部栄養課)
内田文代(看護部)
八幡明子
(在宅サービス部通所リハビリテーション)
石本恵美
(在宅サービス部通所リハビリテーション)
岩田奈津子(看護部)

この子はだ〜れ

答え



①

リハ部
曾田良平さん
曾田ひかり(2歳)ちゃん



②

看護部
曾田瑠依さん
曾田心結(ここみ)(2歳)ちゃん

公仁会事業報告 H29. 6.7.8月

患者重症度指数	強化項目
	リハビリ数

鹿島病院

①外来部門

診療日数65日	1日平均入数
延外来延患者数	1,066人 16.4人/日

②病棟部門

②-1：2F病棟（特殊疾患病棟）

診療日数92日	1日平均入数
延入院患者数	5,423人 58.9人/日
レスピレーター装着延患者数	2,251人 24.5人/日
リハビリ延実施数	2,147単位 23.3単位/日

②-2：3F回復期リハビリテーション病棟
(回復期リハビリテーション病棟)

延入院患者数	4,607人 50.1人/日
脳血管疾患リハビリ	12,598単位 136.9単位/日
廃用症候群リハビリ	1,625単位 17.7単位/日
運動器リハビリ	14,316単位 155.6単位/日
呼吸器リハビリ	0.0単位/日

②-3：4F病棟（医療療養病棟）

延入院患者数	5,190人 56.4人/日
脳血管疾患リハビリ	1,016単位 11.0単位/日
廃用症候群リハビリ	2,794単位 30.4単位/日
運動器リハビリ	1,517単位 16.5単位/日
呼吸器リハビリ	934単位 10.2単位/日
がん患者リハビリ	12単位 0.1単位/日

②-4：短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数
24人 0.3人/日

在宅サービス部

①通所リハビリ “やまゆり”

稼働日数79日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,449人 31.0人/日
短期集中リハビリ実施数	352単位 4.5単位/日

②鹿島病院デイサービスセンター

稼働日数70日	1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,395人 19.9人/日

④訪問看護 “いつくしみ”

稼働日数62日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	198人 3.2人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	621人 10.0人/日
訪問看護延利用者数(医療介護・リハビリ)	270人 4.4人/日

⑤鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数62日	月平均策定数
延ベケアプラン策定数	432人 144人/月
延ベ介護予防ケアプラン数	62人 21人/月

職員数

職 種	職員数
医 師	6名
薬 剤 師	2名
P T	21名
O T	19名
S T	6名
看護師(准看護師)	84名
臨床検査技師	2名
診療放射線技師	1名
M S W	6名
介護支援専門員	6名
介護福祉士(介護職員)	67名
歯 科 衛 生 士	2名
管理栄養士(栄養士)	4名
調 理 員	11名
事 務 職 員	17名
合 計	254名

29.10.1現在

医療法人財団公仁会 基 本 理 念

私たちは、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会 基 本 方 針

- ①鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ②患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりといつくしみの心で接します。
- ③技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会 行 動 指 針

- ① **Safety** ……安全を最優先します。
- ② **Speedy** ……変化に能動的に挑戦します。
- ③ **Service** ……おもてなしの精神で接します。

医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、
松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1.良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1)回復期医療の充実
- (2)良質な慢性期医療の提供
- (3)質の高いリハビリテーションの提供
- (4)看護体制の充実と強化

2.在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1)良質なリハビリテーションの提供
- (2)良質な在宅生活支援サービスの提供

3.地域連携 及び 地域貢献

- (1)病院連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

- (2)予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3)地域への情報発信

4.人材の確保 及び 育成

5.医療安全・院内感染対策の推進

6.医療サービスの質の改善への取組み

- (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2)臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3)患者満足度向上の組織的取組み
- (4)施設・設備・環境の整備と充実

7.新電子カルテシステムの検討・移行準備

患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。
患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

2.平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

3.インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く(セカンドオピニオン)ことができます。

4.情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

5.プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日：部長会承認)

- 1.患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
- 2.患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
- 3.終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
- 4.患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
- 5.臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。

大会報告

病院対抗バレーボール大会

9月30日(土)島根県立浜山体育館で開催された第83回病院対抗バレーボール大会に出場しました。男女とも予選リーグ敗退という結果でしたが、女子は今年初勝利を収めることが出来ました。鹿島病院は大会に参加し3年目になりますが、一昨年は男女とも惨敗、昨年は男子初勝利、今年は女子初勝利と徐々に結果が出るようになってきました。未経験者も多く、毎月1回程度のサークル活動から始めたバレーボールでしたが、1球を追ってレシーブ・トスとラリーが続くようになりました。また、他部署の方やその家族などとも関わることができ、コミュニケーションの場にもなっています。直会も大盛り上がりで来年へ向けて士気を高めました。ご声援ありがとうございました。

リハ部 藤原法文 石橋莉加子



調理レク



調理レクリエーションを実施しました。 診療部栄養課 峠田博子 小笹明美

9月20日に調理レクリエーションを実施しました。今回は少し趣向を変え、お絵かきホットケーキ作りしてみました。マヨネーズ入れの容器にホットケーキの生地を入れ、絵を描きます。少し焼けてきたところに新たに生地を流し込むことで焼き色に差ができ、絵が浮き上がるような仕組みです。皆さん上手に絵を描いておられ、ハートや星が描かれた目にも楽しいホットケーキが出来上がりました！かわいいのが出来たねと喜んでおられる皆さんの笑顔が印象的でした。次回の企画も楽しみにしてくださいね。

園芸部

園芸部こと医事課のみんなで愛情込めて育てた「松葉ボタン」ヤクルトレディーさんから種のプレゼント。松葉ボタンは初めてのチャレンジでしたが、見事に満開に開花しました！満開の花をみて笑顔になる患者様をみて笑顔の連鎖。花と笑顔の魅力はすごいですね！

編集後記

鹿島病院の部活動も盛んになってきました。

あなたはどんな活動をしていますか。

スポーツ、読書、芸術鑑賞、自然散策、旅行、食べ歩き…？

皆さんのMy life「ときめき鹿島」で紹介してみませんか？

ワークライフバランスを上手に保ってMy lifeをエンジョイしましょう♪

広報委員・事務部 向村 仁美



■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団同仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637
鹿島病院デイサービスセンター
TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 さんきゅう印刷